

檀家制度を廃止し、 新たな寺院の在り方を模索

みんなのお寺 見性院
(熊谷市)



「お寺との付き合い方に悩んでいる方は気軽に相談を」と話す橋本英樹住職

みんなのお寺 見性院 <http://kenshouin.com>
〒360-0161 熊谷市万吉797
TEL048-536-1785 FAX048-536-2010

「世の中が規制緩和へと向かうなか、私たち宗教法人だけが過保護であってはならない」と昨年6月、仏教界で当たり前とされている収入源

「檀家制度」を廃止した熊谷市の寺院、みんなのお寺見性院の橋本英樹住職（48）。同寺では檀家からの寄付金や年会費などは一切もらわず、

住職の教えに賛同する「信徒会員」が任意で法事や塔婆供養を行うだけの「ドライ」な関係性を築いている。

「任職や僧侶を自由に選ぶ、個々人の意思で（仏事を）依頼することも、しないことも決められるようになって初めて信教の自由が保障される」と持論を展開する橋本住職。最近、高額な寄付金や葬儀料を

わずらわしく思い、他の寺から離檀してくる信徒が急増。事実、墓地購入者のほとんどが従来の檀家制度がないという理由で同寺に入信している。寺と檀家の関係性も大きく変わりつつある。

橋本住職は、寺が生き残るためには経済的に自立し、信

徒に金銭的な負担をかけ過ぎないことが重要だと考え、新たな収入源の確立を模索。本堂内で葬儀を行い、仏事や供養にかかわる業務はすべて自前でまかなうなど営業努力も欠かさない。墓石や仏壇なども業者から直接仕入れて市価の6割程度で販売している。

「檀家制度を廃止することでお互いに縛りがなくなり、地域間の往来も盛んになる。競争原理を一部導入することで宗教者の質を高め、公平な世の中の実現にも貢献できるはず」。宗教界のタブーにあえて手を付けた若手住職の動向に注目が集まっている。